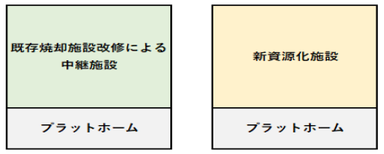
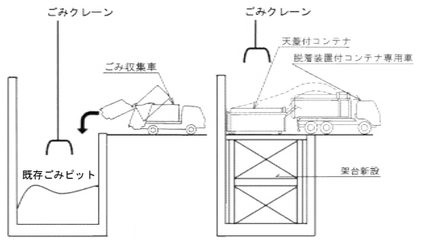
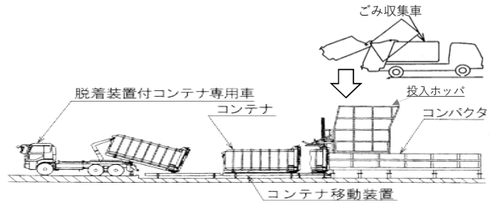
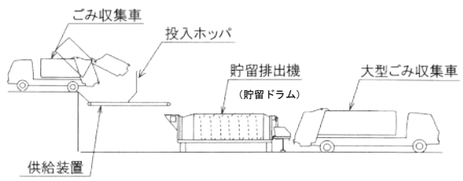
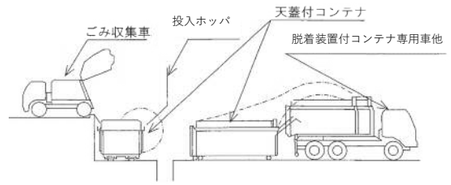
資料５

施設計画（中継方式、別棟・合棟）

区　　分		既存焼却施設改修による中継施設　［別棟］	新設による中継施設　［合棟］		
配置イメージ図					
中　継　方　式		既存ごみピット改造方式	コンパクタ・コンテナ方式	貯留排出機方式	ホッパタイプ（段差直接投入）方式
概　要　図 及び ごみ積込方法		 ≪ピット投入扉No.1、2、3≫　≪ピット投入扉No.4（車両出口側）≫ ごみ収集車からごみを既存ごみピットに落とし込み。 ⇒ごみクレーンでごみを天蓋付コンテナに積込。	 ごみ収集車からごみを投入ホッパに落とし込む、もしくは、 一旦ごみを降ろした後、ベルトコンベア等で投入ホッパに搬送。 ⇒投入ホッパからコンパクタ(圧縮設備)でコンテナに押込。 ⇒コンテナを脱着装置付コンテナ専用車に積載。	 ごみ収集車からごみを投入ホッパに落とし込む、もしくは、 一旦ごみを降ろした後、ベルトコンベア等で投入ホッパに搬送。 ⇒投入ホッパから貯留排出機(貯留ドラム)に一時保管。 ⇒貯留排出機から大型ごみ収集車に積込。	 ごみ収集車からごみを投入ホッパに落とし込む、もしくは、 一旦ごみを降ろした後、ベルトコンベア等で投入ホッパに搬送。 ⇒投入ホッパから天蓋付コンテナに積込。
特徴等	特　徴	・既存ごみピット容量に依存する。 ・既存ごみピット容量と搬送先(神戸市)までの輸送時間等を踏まえ施設稼働時間等を設定する必要がある。 ・既存ごみピットを利用するため、広範囲での臭気及び排水対策が必要になる。 ・脱着装置付コンテナ専用車積込型とコンテナ車両積載型とで、運用方法が異なる。	・コンテナの容量・台数に依存し、貯留量が増加した場合、平面的な保管スペースが必要になる。 ・稼働日数、稼働時間及び搬送先(神戸市)への輸送時間等を踏まえコンテナ台数を設定する必要がある。 ・局所的な臭気及び排水対策が必要になる。	・貯留排出機の容量に依存し、また、整備時点で最大容量が決定するため、安易に容量を増やすことが困難。 ・稼働日数、稼働時間及び搬送先(神戸市)への輸送時間等を踏まえ大型ごみ収集車の必要台数を設定する必要がある。 ・局所的な臭気及び排水対策が必要になる。 ・圧縮性能は大型ごみ収集車の飲み込む能力に依存する。	・コンテナの容量・台数に依存し、貯留量が増加した場合、平面的な保管スペースが必要になる。 ・稼働日数、稼働時間及び搬送先(神戸市)への輸送時間等を踏まえコンテナ台数を設定する必要がある。 ・局所的な臭気及び排水対策が必要になる。 ・脱着装置付コンテナ専用車積込型とコンテナ車両積載型とで、運用方法が異なる。
	パイプライン施設との接続	・パイプライン施設の貯留排出機からごみピットへの既存搬送設備を継続使用するため、搬送方法の検討は不要。	・パイプライン施設の貯留排出機からの搬送方法を検討する必要がある。 （パイプライン施設からの搬送コンベアを新設し中継施設に搬送、もしくは、貯留排出機にごみ収集車を横付けし直接移し替え。）	・パイプライン施設の貯留排出機からの搬送方法を検討する必要がある。 （パイプライン施設からの搬送コンベアを新設し中継施設に搬送、もしくは、貯留排出機にごみ収集車を横付けし直接移し替え。）	・パイプライン施設の貯留排出機からの搬送方法を検討する必要がある。 （パイプライン施設からの搬送コンベアを新設し中継施設に搬送、もしくは、貯留排出機にごみ収集車を横付けし直接移し替え。）
	施設建築物	・中継施設は既存焼却施設、資源化施設は新たな施設建築物となる別棟での整備となるため、デザイン(景観等)の統一など十分な検討が必要である。	・中継施設と資源化施設との合棟での整備となるため、施設建築物としてのデザイン(景観等)の検討・工夫が可能である。	・中継施設と資源化施設との合棟での整備となるため、施設建築物としてのデザイン(景観等)の検討・工夫が可能である。	・中継施設と資源化施設との合棟での整備となるため、施設建築物としてのデザイン(景観等)の検討・工夫が可能である。
備　考	想定供用開始時期（※）	中継施設：令和12年4月以降、新資源化施設：令和15年4月以降	中継施設・新資源化施設：令和15年4月以降		
	施設整備期間中における外部委託処理	焼却物・資源物：必要	焼却物：不要、資源物：必要		

（※）今後実施予定のメーカーアンケート結果に基づき、設計・工事等期間を含め再検討を行います。